

平成31年度学校経営方針

一人一人が自分の夢を実現させるために
日々努力し続けていける学校を目指して

I 教育目標

人間尊重の精神を基調として、広い視野をもって未来を生き抜く、心身共にたくましい生徒を育てるために、次の目標を掲げ、全教職員で教育実践に取り組む。

○豊かな心 ○学ぶ力 ○健やかな体

II めざす学校像

- 生徒が安心して安全に生活できる学校
- 生徒・教職員が夢をもち、夢に向かって努力し続ける学校
- 生徒・教職員が(羽田中学校に)所属することに喜びと誇りをもてる学校
- 一人一人の個性・特性を生かし、規律と活力のある学校
- 地域との連携を深め、地域・保護者に信頼される学校
- 教職員と生徒・生徒同士が信頼関係で結ばれた温もりのある学校

III めざす生徒像

H Heart 「豊かな心」

自他の命を尊重し、互いの存在を認めあえる生徒

N Never Give Up 「あきらめない意志」

夢実現のため、あきらめない強い意志をもった生徒

D Do Your Best 「全力で学び、全力で体を鍛える」

中学校生活に最善を尽くして取り組める生徒

IV 学校経営の基本方針

- 「豊かな心と主体性を育む教育」を推進する。
- 「学力向上・体力向上のための取り組み」を推進する。
- 「地域と共に子どもを育てる教育」を推進する。
- 「規律ある学校生活」を送らせる。
- 「信頼される学校」であり続ける。

V 学校経営の方策

1 「豊かな心と主体性を育む教育」を推進するために・・・

- 様々な機会をとらえて、生徒を褒める。頑張ったことに対してプラスの評価を与えることで、意欲的に中学校生活を送らせる。
- 道徳教育を要とした全教育活動を通して、人権尊重を推進し、自他の生命を尊び、互いを認め、思いやりある心情・態度を育てる。
- 生徒との心のふれあいを通して生徒理解を深め、人間性豊かな生徒を育てる。
- hyper-QUを活用し、生徒一人一人の状況を把握し、支援に役立てる。
- 通常学級と特別支援学級との交流を図り、相互理解を深める。
- 挨拶の励行を基本に、あらゆる場面で礼儀の大切さを理解させ、時と場をわきまえた言動ができる生徒を育成する。(教職員の率先垂範)
- 行事や生徒会活動・学級活動・集会等を通して、リーダーシップとフォロアーシップを育て、望ましい学級・学年集団を作る。
- 各行事への取り組みを通して、達成感と感動を体感させる。(自己肯定感)
- 様々なボランティア活層を体験させ、「人のために役立つ」喜びを味わわせる。(自己有用感)
- 体育祭・文化祭等の学校行事や移動教室等での自然体験活動、職場体験、その他の校外学習、部活動等での体験的活動を通して、温かな人間関係を築くと共に、生徒の主体性を育成する。
- 小中一貫教育を充実させて、「規範意識向上プログラム」を計画的に実践し、自らを律する力を身に付けさせる。

2 「学力向上と体力向上のための取り組み」を推進するために・・・

- 授業規律と教室内外の環境整備を徹底し、落ち着いた学習環境を確立する。
- 学区域内の小中学校との連携を強化し、基本的な学習習慣を定着させる取り組みに力を入れる。
- 読書学習司書を有効活用し、生徒の読書量を増やすことで、文章読解力の基礎を身に付けさせ、学力の基盤とする。
- ICT機器の活用により、生徒の興味・関心を高め、生徒が主体的に取り組み、集団の中で自分の意見を述べたり、仲間の意見を聞いたりすることで理解を深めていく授業を展開する。
- 数学科及び英語科の教員と学習指導講師との情報交換を密にし、連携を深めることで指導方法の一層の改善を図る。
- 校内研究授業に加え、積極的に他校での授業を見学することで全教員が授業力を高める。
- 生涯学習の基盤としての健康教育、体力向上に対する生徒の意識を高め、自ら積極的に体を動かすよう指導する。
- オリンピック・パラリンピック教育を推進し、スポーツやボランティア活動を通して、心と体の調和的な発達を促すと共に、異文化や自国の文化の理解を深め、国際平和に寄与しうる生徒を育成する。
- 「体力向上プログラム」を活用した取組(一校一取組「投力と持久力の向上」)や、健康と食に関する教育を充実させる。

3 「地域と共に子どもを育てる教育」を推進するために・・・

- 家庭や地域社会と連携し、保護者や地域の力を活用して意欲的に社会に貢献する生徒を育てる。
- 充実した施設を活用し、環境教育の充実を図ると共に、羽田空港を間近に望む地域性を生かして国際理解教育を推進し、世界に視野を広げ多角的に物事を考え行動できる資質を培う。
- 土曜授業公開、土曜補習教室、学校・学年だより、ホームページ等を活用し、学校の教育活動や学校の自己評価・保護者アンケート結果を公開し、保護者・地域の方からのご理解とご協力を得る。

4 「規律ある学校生活」を送らせるために・・・

- 生徒一人一人に将来の夢をもたせ、夢実現に向けて日々努力していけるようサポートする。進路指導を充実させ、主体的に自己の進路を切り開かせる。
- 基本的な生活習慣を定着させるため、5月と10月に実施する「早寝、早起き、朝ご飯月間」を有効活用して、生徒の意識を高める。
- 学校行事や部活動等を有効活用し、生徒の自己肯定感を高め、事後の生活指導ではなく、未然に防ぐ生活指導に重きをおく。
- 毅然とした指導と、カウンセリングマインドを活かした指導を併用し、調和のとれた生活指導を行う。
- 可能な限り迅速に全教職員で情報を共有し、生活指導主任を中心に組織的な指導を行う。
- 部活動の充実を図り、心身ともに健やかな生徒を育成する。(全教員が部活動顧問)
- 学区内小学校との連携を深め、協力して基本的な生活習慣を確立させる。小中一貫教育を推進し、生活指導スタンダードと学習指導スタンダードによる指導を徹底する。
- 課題のある生徒・不登校生徒への支援・対応を効果的に進める校内体制の整備を図る。特別支援教育コーディネーターを中心にしたSCやSSW、学校特別支援員との連携を強化する。
- 不登校対策実施校の指定を受け、不登校生徒やその家庭に対する支援を充実させる。

5 「信頼される学校」であるために・・・

- 教職員一人一人が自らの職責を自覚し、サービスを遵守すると共に自己研鑽に努める。
- 教職員一人一人が自らの職務に誇りを持ち、信念をもって指導にあたる。
- 積極的に地域行事等に参加して、生徒・保護者・地域の方との信頼を深める。
- 資源循環を意識し、光熱費・水道費・消耗品費を可能な限り抑える。
- 保護者・地域の方からのご意見・ご要望・ご相談には迅速・丁寧に対応する。
- 会計(公費・私費)の適正な執行とその確認を行う。(学校徴収金等検討委員会を年2回実施)
- 電話対応・来校者対応には、親切・丁寧な接遇を図る等、凡事徹底を図る。
- 教職員がライフワークバランスを確立し、自らの人間性や創造性を高め、効果的な教育活動を行う。